

令和元年度

『禅と心』研究の学際的国際的拠点づくり
とブランド化事業（禅ブランディング事業）

自己点検・評価報告書

令和2年5月

駒澤大学禅ブランディング
自己点検・評価実施委員会

曹洞禅とその源流研究チーム

代表者	仏教学部	角田泰隆
メンバー	仏教学部	池田練太郎、石井公成、佐藤秀孝、程正、徳野崇行、山口弘江

●5ヶ年の事業内容・目標

5ヶ年の事業内容・目標

① 曹洞禅の源流を求めて…曹洞禅に至る禅の流れ

禅系三宗の一つである曹洞宗の大学として出発した駒澤大学。禅の源流は、古くインドに遡る。曹洞禅とその源流研究チームでは、インドの禅が中国に伝播し、中国的に展開し、それが中国宋代に入宋した道元禅師によって日本に伝えられ、瑩山禅師によって全国に広まった、歴史と思想を研究する。

また、これらの研究において重要な歴史的文献や、近現代の主要な著書や論文も紹介する。駒澤大学を中心とした禅学および宗学の研究史を明らかにし、それらの研究を概観できるようにして、本学の学生のみならず、広く内外の研究者や一般の人々にも役立つようにしたい。

② 坐禅作法の研究

道元禅師が伝来した禅の中心的修行である「坐禅」について、曹洞禅における坐禅の意義を明らかにし、さらにはその作法について、坐禅に関する文献に基づいた研究を行う。

③ 他チームとの連携

他チームの研究に協力し、また他チームが研究し発信する内容について、曹洞禅の視点による助言を行う。

●事業計画(2019年4月～2020年3月)

a 近代における「禅と心」研究シンポジウム

明治以降の、特に駒澤大学における「禅と心」研究の伝統を中心にした講演会とシンポジウムの開催。

講師として学外研究者3名と、本学教員2名を予定。シンポジウムのタイトルとして「駒澤大学における『禅と心』研究の伝統—中国の禅宗の心理観から忽滑谷快天初代学長まで—」を考えている。

b 曹洞宗における坐禅作法の研究

全国の曹洞宗僧侶教育施設・僧堂で行われている坐禅の作法を調査する。

2019年度は、長谷寺(港区)、永平寺(福井)、總持寺(横浜市)、皓台寺(長崎)の調査を行う。

●今後の計画

これまでの事業における研究成果をまとめ、『禅の歴史—曹洞禅の源流を尋ねて』という冊子を作成し、令和2年度中に公表(刊行)する予定である。坐禅作法の研究については、坐禅作法に関する文献の研究を継続して行い、できればその一部でも研究成果を公表したい。

●活動報告 (2019年4月～2020年3月)

a 近代における「禅と心」研究シンポジウム

令和1年7月20日(土)にシンポジウム「駒澤大学における『禅と心』探求の歴史」を開催し、石井公成(本学仏教学部教授)、オリオン・クラウタウ(東北大学准教授)、吉永進一(舞鶴高等専門学校教授)、谷口泰富(本学名誉教授)の4人の講師による研究発表とパネルディスカッションを開催した。

b 曹洞宗における坐禅作法の研究

坐禅作法に関する文献の研究について継続して行った。

c 坐禅と禅院の食事作法(展開チームと合同開催)

学内を対象に、10/4 角田泰隆先生による展鉢の会、10/25 元永平寺典座・二瓶法道老師による精進料理を学ぶ会を実施。それぞれ 28 名、35 名の参加者を得た。

d 「臘八坐禅」の開催(※禅ブランディング事業の全体の企画として)

12 月 2 日～6 日の早朝(7 時 20 分～8 時 10 分)、駒澤大学の教職員と学生を対象とした坐禅会を開催した。坐禅指導は、源流チームと展開チームの仏教学部教員が行い、最終日には永井政之総長にもご参加いただいた。

e 源流チームの事業は、仏教学部と密接に関わっているが、事業の進捗状況や計画について、毎回仏教学部教授会において報告を行い、連携体制の構築に努めた。

f 2018 年 3 月より Web サイトのコラムに「駒澤大学に坐禅の授業を始めた澤木興道という人」を掲載してきたが、2019 年 9 月に全 7 回を完結した。また、Web サイトのスタディーに「禅の歴史—曹洞禅の源流を尋ねて」(全 26 回)を順次公開中である。

○自己点検・評価 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

a 近代における「禅と心」研究シンポジウム

この事業の目標は達成できたと思われるが、この事業の成果についてはまとめられていない。

b 曹洞宗における坐禅作法の研究

この事業において、全国の曹洞宗僧侶教育施設・僧堂で行われている坐禅の作法の調査については実施することができなかった。この実地調査については取りやめる。坐禅作法の文献の研究については未だ研究成果を公表するに至っていない。

c 坐禅と禅院の食事作法(展開チームと合同開催)

展鉢の会(10/4)、精進料理を学ぶ会(10/25)ともに定員を満たす参加者を得て、充実した会を催すことができた。展鉢の会では中食の略展鉢(ご飯と味噌汁と副菜と香菜)を行ったが、アンケート調査の結果からは、作法の意義や美しさに感動する参加者が多く、貴重な体験ができたと感じの声が多く寄せられた。参加者の満足度が高く非常に好評であった。

精進料理を学ぶ会では、二瓶老師による法話と胡麻豆腐の作り方の実演と試食が行われたが、ほとんどの参加者が初めての体験であり、アンケート調査の結果からは、「食」の大切さや命の大切さをあらためて実感したという参加者が多く、また胡麻豆腐が美味しかったと好評であった。

d 「臘八坐禅」の開催(※禅ブランディング事業の全体の企画として)

前年度のこの事業の自己点検・評価を踏まえ、今年度は充分余裕をもって準備を行い、仏教学部との連携も上手に取ることができ、日程や配役についても万全を期して事業に臨めた。

e 仏教学部教授会において毎回、事業の進捗状況や計画について報告を行い、連携体制の構築に努めることができた。

f Web サイトのコラムおよびスタディーを利用して、禅の歴史や思想を発信できている。「禅の歴史」の公開については、事情によりしばらく滞っていたが、2020 年 3 月から続きを順次公開できている。

○将来に向けた発展方策

① 「曹洞宗の源流を求めて…曹洞禅に至る禅の流れ」については、鏡島元隆博士「禅学概論講義ノート」や連続講座「禅の歴史」の講義を冊子にまとめて公開したい。

② 「坐禅作法の研究」については、計画通りに進展しておらず、全国の曹洞宗僧侶教育施設・僧堂で行われている坐禅作法の調査については実施をとりやめ、坐禅作法に関する文献の研究について継続して行っていきたい。将来的に、その研究成果の一部でも公開したい。

禅の受容と展開研究チーム

代表者	仏教学部	飯塚大展
メンバー	仏教学部	奥野光賢、岩永正晴、程正、村松哲文、大澤邦由
	文学部	田中徳定、近衛典子、モート、セーラ
	学内協力者	櫻井陽子
	学外協力者	永井政之(本学仏教学部名誉教授)、堀川貴司(慶応大学斯道文庫教授)

●5ヶ年の事業内容・目標

- ・高度な中国文化である禅が、院政期以降、日本社会においてどのように受容されてきたのかを研究する。
- ・各時代における禅僧の活動、禅宗寺院のありかたを通して、禅が日本社会に及ぼした影響を考察する。
- ・鎌倉時代末から南北朝期に成立した五山、周縁的存在であった林下、その歴史的展開を踏まえ、多様な禅僧の活動に注目する。特に、戦国期以降、日本語による教義問答、その理解に基づく禅の言説に焦点を当て、日本的受容を明らかにする。江戸時代における禅籍の出版、注釈史的研究を行う。
- ・禅の影響を、文学や芸能、美術など、日本文化の中に見出す試みを行う。
- ・コンテンツ作成に特に力を注ぎ、禅語解説(禅僧の言葉、公案など)、禅僧の紹介、頂相・墨蹟の解説などを行い、『新纂禅籍目録』のデータベース作成を通じて、本学の所蔵する禅籍を紹介する。

●事業計画(2019年4月～2020年3月)

- ① 聖教(禅籍)に関する研究

禅籍目録電子版(試行版)を作成・公開する。データの校正作業を進め、終了したものから順次公開していく。その他、敦煌禅宗文献目録掲載データの作成、データベース化の準備・検討を行う。
- ② 禅籍抄物データベース作成

2019年度は、花園大学国際禅研究所に移管収蔵されている資料の撮影とデータ作成を実施する。併せて両足院所蔵禅籍抄物の資料紹介冊子を作成する。
- ③ 禅における近世の研究

2019年度は、前年度研究会報告書の作成、永平寺(福井)での調査と資料の撮影等を行う。
- ④ 禅と文化の研究
 - 1) 頂相の調査研究と注釈的研究

2019年度は、頂相の注釈的研究の資料紹介パンフレットの作成、永平寺(福井)、西福寺(長野)、普濟寺(静岡)での調査と資料の撮影等を行う。
 - 2) 中世から近世文学における禅

以下のイベントの実施を予定。

 - ・上方講談師、旭堂南海氏と本学出身落語家による「禅にまつわる講談と落語」
 - ・堤邦彦先生(京都精華大学)による仏教説話に関する講演と道元絵伝絵解き
 - ・禅が文学に与えた影響を幅広く考察するイベントの開催。達磨寺(群馬)、祇園寺(茨城)の住職を講師に招いての講演会の開催とその準備等を行う。

⑤ 坐禅と禅院の食事作法(源流チームと合同開催)

- 1) 坐禅作法並びに食事作法に関するパンフレットの作成
- 2) 第1回は初歩的作法、第2回と第3回は永平寺、總持寺から講師を招き、展鉢を行う。

●今後の計画

- ① 禅籍目録電子版(試行版)の全データ・全項目公開を目指す。次に、敦煌禅宗文献目録を作成し、一般公開する。
- ② 両足院所蔵資料、各地の曹洞宗寺院所蔵の禅籍抄物の資料調査を進め、データベース化し一般公開する。
- ③ 2020年度に良寛関係の企画展を実施し、また未調査分の『正法眼蔵』草案本調査を進める。
- ④ 2020年度後期に行う「禅フェス」の中で、10月16日に講談と梅花流詠讃歌を組み合わせたイベント「音と声」を開催、11月23日に能狂言のイベント、11月からの特別展示においてこれまでの研究成果を公開する。
- ⑤ 2020年度「禅フェス」内で禅と食事、食事作法に関わるイベントを実施する。

●活動報告 (2019年4月～2020年3月)

① 聖教(禅籍)に関する研究

禅籍目録電子版(試行版)を作成し5月より一般公開を行っている。ア～サ行までは全項目、ナ行以降は一部の項目に限定して公開している。ナ行、マ～ワ行については校正作業までを終了した(タ行、ハ行は校正作業を継続中)。

また、敦煌禅宗文献目録掲載データの作成、データベース化の検討を行った。

② 禅籍抄物データベース作成

両足院での調査を5度実施。その他、永平寺(福井県)での調査を行う。

③ 禅における近世の研究

12月13日～1月10日にかけて連続講座「禅の歴史Ⅱ」を計4回実施(講師:菅原昭英<東京大学・駒沢女子大学名誉教授>、道津綾乃<神奈川県立金沢文庫主任学芸員>、飯塚大展<仏教学部>、堀川貴司<学外協力者>)。

永平寺において『正法眼蔵嗣書』草案本2点の調査・撮影を実施。

展開チームメンバーを対象にモート、セーラ先生による在外研究報告会、岩永正晴先生による勉強会『宝慶記』と『宝慶記聞解』における「仏法の総府」について」を実施。

④ 禅と文化の研究

1) 頂相の調査研究と注釈的研究

永平寺所蔵の頂相等、約20点の調査を実施。

2) 中世から近世文学における禅

・6/7 旭堂南海氏の実演を実施。参加者は173名。終了後には、参加学生との座談会を行った。

・10/17に「道元絵伝の絵解きと説話」を実施。イベント前半に田中徳定先生(本学文学部)による道元絵伝の絵解きの解説、後半は堤邦彦先生(京都精華大学)による講演「道元絵伝の絵解きと説話」実施。参加人数289名。

・3/13に達磨寺見学会と永井総長、近衛先生を発表者とする現地勉強会を予定していたが、新型コロナウイルス

ルス流行に伴うイベント自粛要請に従い延期とした。

⑤ 坐禅と禅院の食事作法(源流チームと合同開催)

学内を対象に、10/4 角田泰隆先生による展鉢の会、10/25 元永平寺典座・二瓶法道老師による精進料理を学ぶ会を実施。それぞれ 28 名、35 名の参加者を得た。

●自己点検・評価 (2019 年 4 月～2020 年 3 月)

- ① 禅籍目録電子版(試行版)の一般公開を開始した。ただし、公開当初は、書名等の項目に限定した公開であり、データ校正作業が終了したものから随時データを反映し、全項目公開することとしている。2019 年度内にア～サ行までは全項目公開、ナ行、マ～ワ行は校正作業までを終了しており、2020 年度中の全データ全項目公開の目途は立っている(タ行、ハ行は校正作業を継続中)。また、敦煌禅宗文献目録データベースについての検討も開始しており、2020 年度内での公開実現に向けて、順調に作業を進めている。
- ② 禅籍抄物データベースの基礎となる両足院所蔵資料の調査・撮影を進めた。併行して、翻刻データの作成を行い、書誌データの整理を行った。また、永源寺、大徳寺玉林院の調査を開始した。
- ③ 2020 年度に開催する良寛関係の企画展実施を目指し、資料収集、資料調査を進めた。また永平寺所蔵『正法眼蔵』草案本の調査・撮影を行い、2020 年度に開催する「永平寺展(仮称)」に向けた準備を行った。
- ④ さまざまなイベントを通して、民衆に受容され展開した禅文化を、主として一般・学生を対象として紹介した。各イベントの参加人数も多く、関心の高さがうかがえた。2020 年度の「禅フェス」開催に向けた布石として大きな成果を得た。
- ⑤ 10 月に 2 度のイベントを行い、学生を中心とした参加者に、修行僧が持つ応量器を使用し、禅寺の食事と食事作法を体験していただいた。1 度目のイベントの参加者の多くが引き続き 2 度目にも参加していただき、非日常の食事体験に興味を持っていただいたものと評価している。

○将来に向けた発展方策

- ① 禅籍目録電子版(試行版)の完成を目指す。また、禅籍抄物、敦煌禅宗文献目録についてもプラットフォームを作成し、随時データの入力・公開を進めていく。また、外部機関(禅籍を所蔵する大学図書館等)との交渉を行い、既存のデータベースをプラットフォームとして活用し、将来的には外部機関の所蔵する禅籍等の情報を公開できるよう努める。
- ② 未撮影資料の撮影・調査を進めるとともに、2020 年度内の一部データ公開を目指し作業を進める。
- ③ 成果を印刷物、Web サイト等で公開していく。
- ④ 禅と文学・藝能に関するさまざまな研究・イベントを通して、コンテンツの作成を行い、2020 年度に成果発表を行う。
- ⑤ 2020 年度「禅フェス」内で禅と食事、食事作法に関わるイベントを実施する。

禅による人の体と心研究チーム

代表者	医療健康科学部	名古安伸
メンバー	医療健康科学部	吉川宏起
	文学部	鈴木常元、荒井浩道、久保尚也、小室央允、
	経済学部	松井柳平、江口允崇、村松幹二、矢野浩一、井上智洋、増田幹人、 鈴木伸枝、舘健太郎、西村健
	総合教育研究部	鈴木淳平
	学外協力者	瀬尾育武(駒澤大学名誉教授)、茅原正(駒澤大学名誉教授)、 谷口泰富(駒澤大学名誉教授)、田中仁秀(曹洞宗総合研究センター)

● 5ヶ年の事業内容・目標

近年、世界的に禅が注目されているようです。これは現代社会が急速に変化することから生ずる「心の問題」にあるのではないのでしょうか。禅の教えに「身心一如」ということばがあります。身体と心は常に一体で、切り離すことはできない。という意味です。私たちは、「坐禅」が人の体と心にどのような効果をもたらすのか、科学的に分析研究を進めています。

「坐禅」を科学的に捉える方法として、①脳波測定や、②磁気共鳴画像(MRI ;Magnetic Resonance Imaging)があります。坐禅による体と心の変化を数値または画像で表すことができないか研究しています。また、③坐禅が人の行動特性に与える影響について、その因果関係を客観的なデータから科学的に検証することを目指します。これら3つの研究を進めることで、現代人が抱えている心の問題を坐禅の観点から、提言することができればと思います。

今、私たちは先行研究の整理と実地調査を行っているところです。坐禅の姿勢と呼吸はどのように関係するのか、科学的データの蓄積と分析を進めているところです。そして、今後さらに「曹洞禅とその源流研究チーム」、「禅の受容と展開研究チーム」と連携して研究を進めていきます。このページではその結果をお伝えしていきたいと思っています。

● 事業計画(2019年4月～2020年3月)

- ① 椅子坐禅の効能の検討: 椅子坐禅において、坐禅時と同様の特徴があらわれるのか、坐禅時に得られるリラクゼーションなどの副次的な効能が得られるかどうかを検証する。
- ② ファンクショナルMRI法による脳機能解析の研究: 曹洞禅の僧侶と、坐禅の未経験者を比較し、坐禅の習熟度の違いによる脳活動の変化をMRI装置を用いて画像化する。
- ③ 禅の影響についての統計学的研究: ランダム化比較実験をおこない、禅の影響について統計的に調査・研究する。ランダム化比較実験の手順について見直し検証をし、試行的な実験で得られたデータの分析結果をもとに、さらなる実験を検討する。
- ④ シンポジウムの開催: 「禅とスポーツ」をテーマにシンポジウムを開催する。総合教育研究部の鈴木淳平先生をコーディネーターとし、福島大学教授他に講師を依頼予定

●今後の計画

2019年度はこれまでの研究成果を禅ブランディング HP にて公表するよう作業を進める。

2020年度は禅(ZEN)プログラムの検討と構築を目指し、開発したセミナー等のプログラムを実践し、駒澤大学のみならず、広く社会へ普及するよう努める。そして、本学の学生教育の一貫として、禅(ZEN)プログラムを提案し、駒澤大学生のアイデンティティの形成につなげる

●活動報告 (2019年4月～2020年3月)

- ① 禅の心理学的側面からの研究: 本学教員・職員の協力のもと、坐禅初学者である学生及び職員を対象として、いす坐禅による注意持続と呼吸生理の変動について実験を1月より開始し、現在も実施している。現状では、データ数が不十分であるため、今後も実験を継続して行う。研究活動についてはこのほかに、坐禅初学者を対象に、いす坐禅によって主観的感情・気分に変動がみられるのか検討するための研究計画を立案した。
- ② ファンクショナル MRI 法による脳機能解析の研究: 前年度の研究を継続して検討を行った。実験予定だった装置についても改善が見られず中止となり、予定した実験は行えなかった。
- ③ 禅の影響についての統計学的研究: 2018年度におこなった禅の影響についてのランダム化比較実験(2019年1月25日)の経験を元に、今後おこなうべき実験デザインについて、継続して検討を進めている途上である。
- ④ シンポジウムの開催: 本学独自の禅心理学に関する講演会を企画し、茅原正名誉教授に登壇の依頼を行った。しかしながら開催日程等の調整がつかず講演会の開催を断念することとなった。

○自己点検・評価 (2019年4月～2020年3月)

- ① 禅の心理学的側面からの研究については、今年度は新たな実験を計画し、現在実験を継続して行っている。さらに 2020年度に向けて新たな研究の準備を進めている段階である。これらのことから、研究面については事業計画を大幅に進めることができたものと考えられる。成果等の報告という点については、禅心理学に関する講演会の開催を企画したが、諸般の事情で開催を断念することとなってしまったため、不十分であったといえる。
- ② 使用装置、解析装置の動作不良もあったが、結果の報告まで至らなかった。成果報告についても再検討し、最終年度に繋げたい。
- ③ 継続して検討を進めている途上であり、今後の展開が期待されている段階である。

○将来に向けた発展方策

今後おこなうべき実験デザインについて、2018年度におこなった実験の経験を元に、継続して検討を進め、あらためて実験をおこない、データを蓄積していきたい。

禅と現代社会研究チーム

代表者	経営学部	青木茂樹
メンバー	仏教学部	飯塚大展
	文学部	久保田昌希
	経済学部	長山宗広
	経営学部	小野瀬拓、兼村栄哲、菅野沙織、中野香織、中村公一、若山大樹
	GMS	各務洋子、山口浩
	法科大学院	日笠完治
	学外協力者	廣瀬良弘

●5ヶ年の事業内容・目標

禅(ZEN)と社会制度の研究 においては、今日的な禅の世界的な流行、およびその応用として企業や医療、健康などの分野に広く広まっていることについて、各々の専門分野の関心から紐解くことを目途としている。そのためには、(1)中世の日本において、禅(ZEN)が当時の社会や戦国大名等に受容された経緯を明らかにすること、(2)現代の社会制度に求められる経営理念や経営者の意識、ダイバーシティ、サステナビリティ等の思想やその実践に、禅(ZEN)がどのように活かされるかを検討すること、(3)禅(ZEN)の観点から、現代人が抱えている心や社会制度の問題に提言をすることに関わる研究を個人が進める。

●事業計画(2019年4月～2020年3月)

2019年度は、禅思想と社会制度について、禅(ZEN)と社会制度の研究 中世から近世の禅(ZEN)について、学外の連携機関と交流を深めつつ、社会制度の観点から本格的な調査研究を行う。視察および各自の研究と学際研究会を進め、歴史、資料研究、実態調査を踏まえ、研究成果を中間報告にむけてまとめる。これについては、フォーラムでの発表および出版を予定している。

① 視 察 PJ: 知見を広める。

2019年度は永平寺に、新たな宿坊ができることとなる。このターゲット、サービス展開などを視察することとする。また永平寺は福井県における永平寺のブランディングを展開しており、行政や地域とどのような連携によって、観光戦略などを展開しているのかを実地調査することとする。

② 学際研究 PJ: 個人研究を深める。

- ・昨年のネットリサーチから発展させた、経営者の禅の勉強会の調査。勉強会コミュニティの意味や経営者が期待するメリットを調査する。
- ・学際研究の応用として、現代社会チームメンバーでの研究発表会を計画している。その際に、ゲスト・スピーカーとして、禅の精神を発展的に現代に展開している精進料理の研究者、日本建築の研究者、心理学やセラピーなどの研究者または実践者の話を伺う計画を年3回予定している。
- ・大船観音寺は曹洞宗・大本山總持寺の直末寺であり、白衣観音は大船のシンボリックな存在である。2011年3月11日東日本大震災の被災地「大船渡市」と大船を“禅”でつなげて世界発信するプロジェクトを行う。
- ・JINS MEME ZENはこのJINS MEMEを用い、臨済宗妙心寺派春光院 副住職 川上全龍師等の監修の下、日常の中での瞑想を実践することを目的として開発されたスマートフォンアプリを調査し、現代人がどのように禅を実践していくかについて考察する。
- ・総持寺が毎年夏の視察。「み霊まつり」は、一般的な盆踊りのイメージとは異なり、若年層を中心に数多くの人々が集まり、「一休さん音頭」や「ひょっこりひょうたん島」などに乗って熱狂的に踊るイベントとして知られている。その目的や成果を調査する。

・企業における実践状況の調査や現地視察、マインドフルネス講師へのインタビュー、禅とマインドフルネスに関する消費者意識調査などを通して把握、分析の上、論文その他の論考を通じ社会に発信する。

③ フォーラムPJ:成果を公表する。

①、②の研究成果を踏まえ、年度内にフォーラムを実施する機会を企画する。

・松本紹圭の講演。同氏は浄土真宗本願寺派光明寺(港区神谷町)の僧侶であるが、自らMBAを取得し2012年、住職向けのお寺経営塾「未来の住職塾」を開講している。

・禅ブランディング事業において、そのターゲットは学生としながらも、これまでのイベントへの参加状況が低い。そこで、本学に關係の深いアーティストにプロデュースを依頼し、禅の本質を理解しながらも音楽などの創作物に、学生を巻き込み、作品を仕上げていくことを企画する。

④ 出版PJ:成果を公表する。

現代社会チームの研究成果を書籍として出版する準備をする。

●今後の計画

2020年度は、禅ブランディング事業の最終年度であり、禅フェスに向けて5年間の事業の全てを報告していくこととなる。禅フェスにおいては、学生のテキストを想定した禅文化本の発刊と、それらの掲示による研究成果の発表を行う。さらに、2019年度事業として、3/30 予定であった⑫シンポジウムや⑬講演会も、禅フェスでの公開へ向け調整をしていく。

① 視察PJ:

總持寺視察、ZEN2.0への参加、永平寺視察

② 学際研究PJ:

宗勢調査

③ フォーラムPJ:

アーティストイベント 学生を巻き込んだプロジェクトとするため、学生団体のZENPALをコアとして、フォーラムの企画立案からプロモーションに到るまで実行して行く。

④ 出版PJ:

「禅と現代社会研究」の事業を通して蓄積してきた研究成果を幅広く公表することが重要と考え、初学者(特に大学生)でも興味を持つような禅と社会制度に関する多様なトピックを掲載した冊子(エッセイ集)の刊行・配布を予定している。

●活動報告 (2019年4月～2020年3月)

① 禅と経営のネットリサーチ:

文科省によるブランディング事業の中止による予算の見直しによって、当該研究の予算執行は取り下げ、過去のデータによる再分析を行なった。研究成果を学生やビジネスパーソンに役立つ禅文化本の出版に活かすこととする。

② 経営者が通う禅の勉強会の研究:

コロナ禍のため「経営禅研究会」の開催がなされなかったため、調査することができなかった。

③ 企業におけるマインドフルネス導入の実態調査:

年度末に調査予定であったが、コロナ禍のため実施できなかった。

④ JINS MEME ZEN 調査:

先方との調整がうまくいかずに実施できなかった。来年度に再調整を行う。

⑤ 宗勢調査:

寺院の調査データの使用許可が下りずに分析できなかったため、資料調査のみに終わった。来年度には調査データの分析許可を得て、研究成果を学生やビジネスパーソンに役立つ禅文化本の出版に活かすこととする。

⑥ 学生やビジネスパーソンに役立つ禅文化本の出版:

来年度に学生向けテキストとして作成できるように、コンセプトや形式の確認、テーマの割り当て、執筆者のタイトル案を出してもらい、執筆を開始している。2020年度の禅フェスまでに作成し、公開とする。

⑦ 禅をベースとしたアーティストと学生のコラボイベント:

実施内容について、アーティストとの話を詰めている。学生サークル等との打ち合わせなどは、コロナ禍のため2020年度の授業開始後より始める。

⑧ 總持寺盆踊り視察:

日程調整がうまくいかず実施できなかった。

⑨ ZEN2.0への参加:

初年度より参加しているZEN2.0の研究報告を、2名がそれぞれ書籍に寄稿し、成果報告をした。学生やビジネスパーソンに役立つ禅文化本の出版に活かすこととする。

⑩ 永平寺の視察:

7月に事前視察で永平寺町を訪れ、永平寺、永平寺町、福井県立大学によるブランディング事業イベントに参加してきた。小林監院老師にお会いして、視察の段取りと3/30のシンポジウムの参加を依頼した。2019年度の視察およびシンポジウムはコロナ禍により延期した。

⑪ 大船観音との連携事業(シンポジウム開催):

先方との調整がうまくいかずに実施できなかった。

⑫ 学際的研究会:

3/30に永平寺の小林昌道監院老師、(株)LIFULLの井上高志氏、NGO InterBar.orgの安田クリスチーナ氏によるシンポジウムを企画したが、コロナ禍のため延期となった。

⑬ 講演会(浄土真宗本願寺派光明寺僧侶):

浄土真宗本願寺派光明寺僧侶に代わり、3/30に小西美術工藝社代表取締役デービッド・アトキンソン氏の講演会を企画したが、コロナ禍のため延期となった。

○自己点検・評価 (2019年4月～2020年3月)

残念ながら、今年度は文科省によるブランディング事業の中止による予算の見直しとコロナ禍による事業中止により、実施不可能な事業が多くあった。そうした状況の中でもこれまでの視察や研究の成果として、現代社会チームから4本の論文が執筆された。門外漢の我々もようやく禅の知識の蓄積と各々の専門性を活かした研究成果が出始めたところであった。

○将来に向けた発展方策

引き続き、禅の世界的な流行に関して、様々な研究分野からの解釈を試みていきたい。特に2020年度は、5年間の事業をとおり、各PJにおいて蓄積してきた研究成果を幅広く公表することが重要と考え、初学者(特に大学生)でも興味を持つような禅と社会制度に関する多様なトピックを掲載した冊子(エッセイ集)の刊行・配布を予定している。

禅ブランディング発信事業チーム

代表者	GMS 学部	各務洋子
メンバー	経営学部	青木茂樹、中野香織、中村公一
●5ヶ年の事業内容・目標		
<p>1.禅(ZEN)の情報について、Web コンテンツを制作し、国内外に向けて発信する。</p> <p>2.禅の(ZEN)の無関心層に向けて、Web サイトへ導く企画を実施し、また社会へ貢献する。</p> <p>3.駒澤大学を拠点とした寺院との連携機能(ハブ&スポーク)を構築し、本事業の研究成果を各寺院で活かす環境を整備する。</p> <p>4.2020年の東京オリンピック開催を契機とし、禅(ZEN)を国内外に発信する。</p> <p>5.4チームの研究成果の発信をサポートし、大学全体の禅(ZEN)研究ブランドを確立する。</p>		
●事業計画(2019年4月～2020年3月)		
<p>①禅ブランディング Web サイト関連 Web サイトへの記事の掲載、サーバーの運用等を継続して行う。</p> <p>②対談企画: 禅・仏教の研究者と異分野の著名人との対談を行い、動画と記事を Web サイト等で発信していく。</p> <p>③Web サイトの多言語化(2019年度は英訳): 禅ブランディング事業は、タイプ B(世界発信型)に選定されているため、Web サイトに掲載中の研究成果やコラム等を多言語で発信する。</p> <p>④ジャパン・ハウスとの連携: 申請時の事業計画であるジャパン・ハウスと連携し、禅(ZEN) を発信する。</p> <p>その他、4 研究チーム主催のシンポジウムや、イベント等をサポートし、発信する。</p>		
●今後の計画		
<p>2020 年度(最終年度)は、最終年度として、5 年間の本プロジェクトの総括として、ZEN フェスでのイベントを通じ、本事業の成果を発表する。</p>		
●活動報告 (2019年4月～2020年3月)		
<p>① 禅ブランディング Web サイト関連 ・記事修正、Web マニュアル制作、Web サーバー運用等</p> <p>② 禅ブランディング 「駒澤大学×ZEN 対談」企画 〈第四弾〉 永井政之×大森立嗣氏×各務洋子 〈第五弾〉 飯塚大展×デービッド・アトキンソン氏×青木茂樹</p>		

- ③ Web サイトの多言語化(2019 年度は英訳)：2019 年度については、運営方法に問題があり実施しなかった。
- ④ ジャパン・ハウスとの連携:この計画は、補助金削減の見直しにより中止となった。

○自己点検・評価（2019 年 4 月～2020 年 3 月）

2019 年度は 2018 年度の事業内容(企画等)を継続した。主要な企画は、禅ブランディング「駒澤大学×ZEN 対談」であるが、第四弾、第五弾については、対談ではなく鼎談の形式を採用した。Web サイトの企画内容は随時新しく更新し、充実を図る。

その他、4 研究チーム主催のシンポジウムや、イベント等をサポートし、発信する。

○将来に向けた発展方策

本事業の 5 年間の成果を最終年度の 2020 年秋に実施する禅フェスの内容を動画にまとめ、本学の歴史と伝統を今に伝える作品として、Web サイトに掲載することはもとより、受験生をはじめとする本学のステークホルダーや、社会へ発信する。国内外に発信するための訴求方法をさらに検討する。またインスタグラムを継続的に活用し、無関心層へわかりやすい発信を続ける。さらに各チーム(曹洞禅とその源流研究チーム・禅と現代社会研究チーム)において 5 年間の成果を書籍としてまとめ、出版する計画である。

事務部門

代表者	教育・研究担当副学長	日笠完治
関係部署		禅文化歴史博物館、総務部広報課
●5ヶ年の事業内容・目標		
<p>① 4 研究チームのサポート・5 チームリーダー連絡会の運営（禅文化歴史博物館） 「曹洞禅とその源流研究チーム」「禅の受容と展開研究チーム」「禅による人の体と心研究チーム」「禅と現代社会研究チーム」それぞれの活動の事務的側面を担う。定期的に開催されるチームリーダー連絡会を円滑に運営する。チーム合同で実施する計画の際には、広報活動などの支援も行なう。</p> <p>② 禅ブランディング発信チームのサポート（禅文化歴史博物館） 禅ブランディング発信チームの活動の事務的側面を担う。禅ブランディング専用 Web サイト等の運営等における(株)電通との調整等を事務的側面からサポートする。</p> <p>③ 大学ホームページへのニュースリリース、プレス対応（総務部広報課） 上記①②などの情報を、大学 HP へのリンクや記事の更新、学外からの問い合わせ対応を行う。</p> <p>④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議の運営（禅文化歴史博物館） 教育・研究担当副学長をプロジェクトリーダーとする PT 会議の運営を行う。併せて、審議内容の学内調整や各チームを横断する事項など、必要に応じて対応する。</p> <p>⑤ 禅ブランディング自己点検・評価、及び外部評価（禅文化歴史博物館） 前年度自己点検・評価結果の外部評価を受けるとともに、今年度の自己点検・評価、及び外部評価を行う。</p> <p>⑥ 禅センター(仮称)の設置準備（禅文化歴史博物館、ほか学内関係部局・学部等） 2018 年 4 月を目指し、禅センター(仮称)の設置準備に着手する。関係する事務部門、学部等を含めた設置準備委員会(仮称)を設置して各種検討を行い、その後の学内手続きや施設・設備の整備を実施する。</p>		
●事業計画(2019 年 4 月～2020 年 3 月当初計画)		
<p>① 各研究チームの事務的支援、及びチームリーダー連絡会の運営を随時行う。また、今年度に計画されている各チームのイベント及びチーム全体で取り組む「禅と心シンポジウム」の開催に向けて運営支援を行う。</p> <p>② (株)電通との基本契約に基づき、個別契約・注文書に係る手続きを行う。禅ブランディング事業 Web サイトへの記事の投稿作業については、学内手続きを踏まえ、随時更新していく。今年度、発信チームで計画されている「対談企画」について事務的支援を行う。</p> <p>③ 大学 HP との連動や、プレスセンターへのリリースを通じ、広報活動を進める。</p> <p>④ 関係各所と調整し、会議の運営事務を行う。親委員会である研究活動推進委員会との調整を行う。</p> <p>⑤ 自己点検・評価報告書を 4 月上旬までに作成し、4 月から 5 月初旬にかけて外部評価委員に評価いただく。いただいた評価は自己点検・評価委員会で報告を行い、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議、及び研究活動推進委員会の報告を経て、5 月末までに大学 HP で公開する。</p> <p>⑥ 禅センター(仮称)の設置については、事務部門だけでは進められない案件であり、学長の方針を伺いながら、設置準備の事務支援を行う。</p>		
●今後の計画		
<p>補助金受給期間が 2019 年度までとなったため、5 ヶ年計画の見直しが必要ではあるが、禅ブランディング事業そのものは 2020 年度まで継続される。5 年間の成果が 2021 年度以降に繋がる方策を検討していく。</p>		

●活動報告（2019年4月～2020年3月）

- ① 2019年度のイベント(6/8 講談、7/20 シンポジウム、10/4 禅の食事作法、10/17「道元絵伝」絵解き、10/25 精進料理を学ぶ、11/14「日日は好日」上映会)開催の運営支援を行い、各イベントでアンケートを作成し、集計を行った。また、アンケートは取らなかったが、「禅の歴史」連続講座と臘八坐禅の実施に事務支援を行った。
※コロナウィルスの影響で中止となったが、3/30 にパネルディスカッションと講演会の企画への支援も行った。
- ② 発信チーム「対談企画」に際し、収録～掲載までの事務支援を行った。また禅ブランディング Web サイトへの掲載手続きや、Instagram発信までの事務支援を行った。
○禅ブランディング Web サイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」(<https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/>)
総PV数(2019年4月1日～2020年3月31日)：29,684回
掲載数:コラム4本、研究成果6本、SPECIAL3本、ニュース20本 計33本
○Instagram投稿数(2019年4月1日～2020年3月31日):34件
- ③ 2019年度開催の各イベントは、大学HPへ掲載し、大学プレスセンターへのニュースリリースや世田谷プラットフォームへの掲載も行った。中止となったが、3/30のイベントについては駒大スポーツへの広告掲出も行った。
○大学HP内禅ブランディング特設ページ(<https://www.komazawa-u.ac.jp/zen-branding/>)
総PV数(2019年4月1日～2020年3月31日):11,438回
- ④ 禅ブランディングプロジェクト・チーム会議(5月24日、11月15日、3月11日開催)、チームリーダー連絡会(計12回)に際し、資料・議事録を作成し、事務的支援を行った。研究活動推進委員会(5月29日、11月20日開催 ※教務部所管のため禅ブランディング関連の議題があった回を記載)へ議題を上程し、資料作成を行った。
- ⑤ 2018年度分の自己点検・評価を、外部評価委員会(5月17日開催)にて評価を受け、文部科学省への報告を行った。
- ⑥ 禅センター(仮称)設置については、研究活動推進委員会において開設に向けての準備を進めることが表明されたが、具体的には進捗していない。

禅ブランディング事業予算は禅文化歴史博物館予算に計上され、2019年度は予算額3,576万円、決算額1,634万円、執行率は約45.6%であった。執行率が低かった理由としては、補助金支援期間が1年短縮されることが通告されたため、当初の事業計画を見直し、計画の取りやめ、計画の縮小を行ったこと、3月に開催予定のイベントが、新型コロナウイルスの影響により中止となったことが考えられる。

○自己点検・評価（2019年4月～2020年3月）

- ① 2019年度のイベント(6/8 講談、7/20 シンポジウム、10/4 禅の食事作法、10/17「道元絵伝」絵解き、10/25 精進料理を学ぶ、11/14「日日は好日」上映会、12/13～1/10「禅の歴史」連続講座、12/2～6 臘八坐禅)は、支障なく開催できた。
- ② 2017年度末に開設された禅ブランディング Web サイト「ZEN,KOMAZAWA,1592」は、禅ブランディング推進係でニュース、コラム、研究成果等の掲載手続きを行った。Instagramは、2020年3月上旬にはフォロワー数が300人を超えたが、投稿数が少なく、コンテンツを増やしていくことが今後の課題である。
対談企画は、年度内に2本の収録を行った。また、昨年度収録した2本と、今年度収録した1本がWebサイトに掲載された。昨年度の課題となっていた掲載までの校正や画像のチェック作業の負担は、(株)電通と作業方法の見直しを行い、チェック工程は改善された。
- ③ 総務部広報課により、大学HPへの掲載、プレスセンターへのニュースリリース、関連媒体への記事の掲載を行うことができた。

④・⑤については、禅ブランディングプロジェクト・チーム会議や、定期的なチームリーダー連絡会の開催に際しては、滞りなく運営サポートができた。2018 年度の進捗状況、自己点検・評価結果等に関する情報も大学 HP にて遺漏なく公開できた。

⑥ 禅センター(仮称)の設置については検討を重ねてきたが、引き続き関係部署との調整を図っていきたい。

予算の執行については、2019 年度事業計画立案後に補助金支援期間の短縮が通告されたが、事業計画を見直す対応で、適切に執行することができた。2 月末から 3 月の新型コロナウイルスの影響は予想外であった。

○将来に向けた発展方策

本学は 2016～2020 年度までの 5 年間で事業計画を策定しており、2020 年度はひとつの区切りとなる。これまでの事業をまとめ、ステークホルダーへの周知に努めたい。そのためにも禅ブランディング Web サイトの充実に努め、事業の認知度向上(アクセス数の増加)を図る。掲出済みのコンテンツの英訳や、研究成果の掲出の部分で、事務的支援をしていく。

大学当局に対し、事業を継続する重要性を認識してもらい、禅センター(仮称)の設置準備を進め、2021 年度以降も禅ブランディング事業の予算獲得に努めたい。また、研究活動推進委員会と禅ブランディングプロジェクト・チーム会議との関連を規程上整理していきたい。

総 括

● 5ヶ年の事業内容・目標

現代社会が直面している「心の問題」に、禅（ZEN）の立場から提言を試みる。禅研究の最先端に位置すると自負する本学が、江戸時代以来の研究の蓄積を踏まえ、1. 現代人の心の問題に新たな提言を試みるため、2. 多様な専門領域と禅（ZEN）を融合した研究を行い、3. 坐禅の身心への影響を科学的に検証し、4. 全学的な機関を設置して、研究成果を国内外に向けて発信する。

● 事業計画（2019年4月～2020年3月当初計画）

2019年度は、引き続き学外の連携機関と交流を深めつつ、本格的な調査研究を実施する。また、禅ブランディング Web サイトの充実を図り、学生や社会への広報活動を行う。

● 今後の計画

補助金受給期間が2019年度までとなったため、5ヶ年計画の見直しが必要となるが、禅ブランディング事業は予定通り2020年度まで継続される。4年目までの達成度で総括を行い、大学HPに公開する。

2019年度は研究成果の波及や実践的な行事を行う。2020年度はシンポジウムを開催し、本事業の研究成果を全世界に発信する。また研究成果を出版物として刊行する。

● 活動報告（2019年4月～2020年3月）

- ① 研究4チーム（曹洞禅とその源流研究チーム〈以下、「源流チーム」という。〉・禅の受容と展開研究チーム〈以下、「展開チーム」という。〉・禅による人の体と心研究チーム〈以下、「身心チーム」という。〉・禅と現代社会研究チーム〈以下、「現代社会チーム」という。〉）は、研究活動を進め、その成果発表の一環として、Web サイトコンテンツ13件を作成すると共に、各研究チーム主催または合同でのイベント等を開催し、外部発信を行った。（6/8 講談、7/20 シンポジウム、10/4 禅の食事作法、10/17 「道元絵伝」絵解き、10/25 精進料理を学ぶ、11/14 「日日は好日」上映会、12/13～1/10「禅の歴史」連続講座〈4日間・8講座〉、12/2～6 臘八坐禅）。
- ② 禅ブランディング発信事業チーム（以下、「発信チーム」という。）により禅ブランディング事業 Web サイトにコンテンツ13件を掲載し、Instagramに34件の投稿を行った。また、2件の対談収録を行い、昨年度収録分2件、今年度収録分1件を Web サイトに公開した。
<https://zen-branding.komazawa-u.ac.jp/contents/1018/>
また、昨年度に制作したクリアファイル、トートバックは、引き続き、各研究チームのイベントや大学の行事などで配布し、禅ブランディング事業の訴求に活用されている。
- ③ 禅ブランディング推進係において、禅ブランディング事業全体に関わる予算編成及び執行を始めとした事務運営を行った。
また、禅ブランディングプロジェクトチーム会議3回、チームリーダー連絡会12回、自己点検・評価委員会1回を行った。発信事業の事務支援として、Web サイト、Instagram運営、サーバー管理等を行った。

● 自己点検・評価 (2019年4月～2020年3月)

- ① 各チームによる研究成果は、まとまったものから Web サイトに公開したが、これまで開催したイベントの成果にはまとめきれていないものもある。コンテンツを増やしていくことが今後の課題となっている。2018年度の課題となっていたイベントへの在校生の参加が少ない、という点は、授業との連動を図ることにより、6/8 講談、10/17「道元絵伝」絵解き、11/14「日日是好日」上映会には多数の在校生の参加者があった。また、10/4 禅の食事作法、10/25 精進料理を学ぶは、在校生メインのイベントとして開催した。
- ② インスタグラムは、2020年3月上旬にはフォロワー数が300人を超えたが、投稿数は1年間で34件にとどまった。禅語の書や仏教にまつわる動画、写真の準備には、思ったより手間がかかる状況であり、投稿内容も検討していきたい。今後は更に Web サイト、インスタグラム共にコンテンツの充実を図り、認知度や発信力を高めていきたい。
- ③ 定期的にチームリーダー連絡会を開催し、研究チーム間の情報共有を図ることができた。禅ブランディングプロジェクトチーム会議の開催や、研究活動推進委員会への審議事項の上程により、当事業の取り組みが学内全体で理解が得られるよう努めた。

● 将来に向けた発展方策

引き続き、当事業の認知度を高めるため、魅力的な情報発信を行っていく。具体的には、5年間の研究活動をまとめ、コンテンツとして Web サイト等で公開していく。また、イベント等では広報活動を積極的に行い、メインターゲットである在校生、受験生をはじめとする社会一般の興味・関心を高めていく。文部科学省に認められていた研究ブランディング事業の最終年を迎えるにあたっての総括的な活動も視野に入れる。

禅ブランディング推進係を中心に当事業の事務的サポートをより充実させていく。禅センター(仮称)の設置については検討を重ねてきたが、引き続き関係部署との調整を図っていきたい。特に学内(在校生・教職員)に向けて、当事業の意義を高める取り組みを行っていく。